



【補助教材4】「一問一答」の過去問

- ① 【補助教材4】は、教育史、教育心理等のいわゆる「一問一答」の過去問の特集です。
- ② 教育法規問題と同じく、最も確実に、しかも短時間に得点を稼ぐことができる領域です。
- ③ 実際の5肢択一式の問題を、あえて正答の語句を書き込む問題に作り替えています。
- ④ 解答用紙は、語句を書き込むタイプの解答用紙Aを用意してあります。
- ⑤ 勉強をすすめていくうち、似たような問題が繰り返されていることに気がつきます。
- ⑥ 解説編も設けています。この見本では48頁の次から解説編です。
- ⑦ ご自身に最も適した「自分なりのノート」をお薦めいたします。
「自分なりのノート」の見本は、最終ページに掲載してあります。
- ⑧ 利用の便を考慮し、製本してあります。
- ⑨ 「何か、よい参考書はありますか」には、次を紹介しております。

『教育用語の基礎知識 Hndy必携シリーズ』（時事出版）／2024年度版で1,430円

人によっては、改訂前の『教育用語の基礎知識 攻略Supportシリーズ』（時事出版）がより使いやすいかも。

次頁以降に見本



【自分なりのノート】最終ページ



【補助教材 4】 「一問一答」の過去問

①平成15年度～令和7年度

○【補助教材 4】「一問一答」の過去問を特集

【補助教材 3】は、教育法規に関する過去問を特集しました。

【補助教材 4】は、教育原理、教育史、教育心理などのいわゆる「一問一答」問題の過去問を特集します。
平成15年度（平成14年実施）試験以降、これまでの過去問をすべて収録し、解説を加えています。

- ① 「一問一答」の問題は、時間をかけずに確実に得点を稼げる分野です。出題される範囲も限られています。
教育法規と「一問一答」で確実に得点とともに時間をも稼ぎ、他の領域の問題にじっくり取り組みます。
- ② この教材は語句の「選択」ではなく、書いて覚える「書き込む」問題に作り替えています。「語句を書き込むタイプの解答用紙A」をお使いください。
- ③ 理解を深め、覚えやすいように、採用試験向けに簡潔でわかりやすい解説を加えています。

教員候補者選考試験
【補助教材 4】第 9 回

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

教 職 教 養

【補助教材 4】問題編の見本

●平成 3 年度実施（午後の部）

大問 1 次の ～ に最も適当なものを答えなさい。【平成 3 年度実施（午後の部）】

- (1) アメリカ・イリノイ州 市の教育長だったウォッシュバーンは、画一的教育方法の弊害を打破し、個人に応じた教育を実現するため、カリキュラムを基礎教科と集団的・創造的活動に分けた ・プランを開発・実践し、個性重視の教育を行った。
- (2) デューイのプラグマティズムの影響を受けたキルバトリックが提唱した は、アメリカの新教育運動の中で実践・理論化された、経験主義に立つ代表的な教育方法論で、目的の設定、計画の立案、実行、判断という 4 段階の教育過程として定式化される。
- (3) 明治12年に公布された は、画一的な学区制の廃止、就学義務の大幅な緩和、小学校の設立・維持の簡素化など、自由な学校づくりを目指した教育の基本法令である。

大問 2 次の ～ に最も適当なものを答えなさい。【令和 3 年度実施（午後の部）】

- (1) は、意味を有する教材を用い、学習されるべきすべての内容を明確に最終形態として提示し、学習者が各自の認知構造に関連付けていく、オーズベル (Ausubel, DP.) により提唱された教授法である。
- (2) により創始された認知療法では、認知の歪みに焦点をあて、支援者と要支援者が共同し、要支援者の認知の在り方を検証していくことが重視されている。

●平成4年度実施（午前の部）

大問1 次の 36 ～ 40 に最も適当なものを答えなさい。【令和4年度実施（午前の部）】

- (1) 18世紀～19世紀のスイスの教育家 36 は、貧民学校や孤児院を設立して、子供達の教育に当たり、近代教育学の諸原理を提唱した。『隠者の夕暮』『シュタンツだより』『メトーデ』などを書き、人間の陶冶を、知的陶冶、身体的陶冶、道徳的宗教的陶冶に分け、頭と手と心臓の調和的発達を教育の目標とした。「生活が陶冶する」というのが、彼の有名な言葉である。
- (2) 19世紀～20世紀のドイツの教育者 37 は、新教育の主要概念の一つである労作主義を理論化し、大成した。労作や労作教育には、手仕事などの身体的活動による子供の自発的活動や人格の陶冶が期待された。彼は、学校に調理、栽培、飼育、工作、実験などを行う施設を設置し、協同的に労作活動を行うことを通じて、子供に社会性を育成することを目指した。
- (3) 記憶は、経験や情報を取り込む 38 、保持、想起の3つの段階からなる心的機能である。
- (4) 学習者のレディネスを理解するために、指導に先立って行う評価のことを 39 という。
- (5) 40 は、仮説に基づき、その予想を実物に当たって調べる授業方法である仮説実験授業を提唱した。

●平成4年度実施（午後の部）

大問2 次の 41 ～ 45 に最も適当なものを答えなさい。【令和4年度実施（午後の部）】

- (1) 中学生、特に女子に顕著にみられる同性及び同質性で結び付いた排他的な関係のことを 41 という。
- (2) エリクソンは児童期の発達課題として、 42 を取り上げた。
- (3) 20世紀のアメリカの認知心理学者 43 は、ウッツ・ホール会議の報告書の『教育の過程』をまとめ、学問中心教育課程を提案した。彼は、教育の現代化運動を進め、学問の構造を反映する形で教育課程を構成するよう主張した。授業とは、学問の構造を発見的探究的に学習させることであり、教育内容としての構造に対応する授業方策が発見学習と探究学習であるとした。
- (4) 初代文部大臣として日本の近代教育制度の基礎をつくった 44 は、イギリス留学を経て、明治維新後、新政府の官僚となった。アメリカの教育制度を視察して帰国後、福沢諭吉らと明六社を結成して国民啓蒙の担い手として活躍した。文部大臣就任後、学校制度の全面改正を行い、大学令や小学校令などの学校令を公布した。特に師範教育の大幅な改善を図った。
- (5) 大正時代に千葉師範学校附属小学校主事になった 45 は、1921年、東京で開催された教育学術研究大会において、後に「八大教育主張」とよばれる自由教育論を主張した。彼は、教育とは人を援助して、その自由を実現させる作用であると述べ、「自己が自己を教育する立場に児童を立たせるところの自己教育又は自教育」こそが自由教育であるとした。後に私立自由ヶ丘学園を創設した。

第 9 回

(46～50頁)

令和 3 (午後)	31	ウィネットカ
	32	プロジェクト・メソッド
	33	教育令
	34	有意味受容学習
	35	ベック
46頁		
令和 4 (午前)	36	ペスタロッチャー
	37	ケルシェンシュタイナー
	38	記銘
	39	診断的評価
	40	板倉聖宣
47頁		
令和 4 (午後)	41	チャム・グループ
	42	勤勉性 対 劣等感
	43	ブルーナー
	44	森有礼
	45	手塚岸衛
48頁		
令和 5 年度 (午 前 の 部)	46	ロック
	47	池田光政が創設した郷学(閑谷学校)
	48	平行遊び
	49	普遍的な倫理的原理の志向
	50	クロンバック
	51	光背効果
	52	キャッテル
49頁		
令和 5 後	53	倫理学
	54	心理学
	55	津田梅子
50頁		
令和 6 (午前)	56	森有礼
	57	上杉憲実(足利学校)
	58	デューイ
	59	コメニウス

●平成3年度実施（午後の部）

大問 1

31 ウィネトカ

ウォッシュバーンが行った教育計画はウィネトカ・プラン。「ウィネトカ」とはイリノイ州にある市の名前。
個人に応じた教育を実現するため、カリキュラムを基礎教科と集団的・創造的活動に分けた。

32 プロジェクト・メソッド

キルバトリックが提唱した教育方法はプロジェクト・メソッド。
デューイの問題解決的学習の流れをくみ、目標設定、計画の立案、実行、判断という4段階の過程をたどる。

33 教育令

1879（明治12）年に公布され、画一的な学区制の廃止、就学義務の大幅な緩和、小学校の設立・維持の簡素化など、自由な学校づくりを目指した教育の基本法令は教育令。学制（1872年・明治5年）に代わる教育に関する基本法規。

○近代日本の重要な教育法令

1872（明治5）	学制	日本の近代学校制度を定めたもの
1879（明治12）	教育令	学制を廃止。「自由教育令」といわれるように、就学義務年限を大幅に緩和
1885（明治18）		内閣制度発足。初代総理大臣は伊藤博文、初代文部大臣は森有礼
1886（明治19）	「学校令」	小学校令、中学校令など。文部大臣・森有礼の公布。近代学校体系の枠組みを確立
1890（明治23）	教育勅語	元田永孚と井上毅の起草。戦前の天皇制国家主義教育の原典
1941（昭和16）	国民学校令	小学校の名称が消え、国民学校に。教育も戦時体制へ

大問 2

34 有意味受容学習

オーズベル（オースベル）により提唱された教授法は有意味受容学習。
意味を有する教材を用い、学習されるべき内容を明確に示し、学習者が各自の認知構造に関連付けていく。

35 ベック

認知療法の創始はベック。
認知の歪みこそが情緒的な問題を引き起こす根源だと捉え、要支援者の認知の在り方を検証していくことを重視する。

●平成4年度実施（午前の部）

36 ペスタロッチャー

設問文中の「貧民学校や孤児院を設立」『隠者の夕暮』『シュタンツだより』「頭と手と心臓（心）の調和的発達」「生活が陶冶する」（『白鳥の歌』）などは、いずれもペスタロッチャー（ペスタロッチ）のキーワード。

家庭教育の重要性や事物などに対する直観から子どもたちの認識を発展させるという直観教育のほか、「玉座の上にあっても、木の葉の屋根の陰に住まっても同じ人間」（『隠者の夕暮』）の名言などが、県内外の試験に数多く引用される。

37 ケルシェンシュタイナー

労作教育は、公民教育とともにケルシェンシュタイナーのキーワード。

ドイツにおいて、労作教育と公民教育を融合させ、学校を人間形成の場とすることを目標とする学校改革を指導した。

「未来の学校、それは労作学校」「われわれの書物中心の学校は、幼児期の遊び中心の学校に連続する労働中心にならなくてはならない」などの名言を残している。

38 記銘

経験や情報を取り込むことを記銘という。

記憶には、次の3つの過程（段階）がある。

- ①記銘 経験や情報を取り込むこと。
- ②保持 記銘されてから思い出すまでの間、情報を原形のまま保つこと。
- ③想起 思い出すこと。「再現」ともいう。

39 診断的評価

指導に先立って行う評価のことを診断的評価という。

学習者のレディネスを理解するために行われる。レディネスとは、学習のために必要な準備状態のこと。学習の前提となる知識や経験、環境などが整っている状態を指しており「心身の準備性」といわれる場合もある。

完全習得学習を唱えたブルームは、次の3つの評価法を提唱した。

- ・診断的評価 → 学習開始に先立ち、学習者がどの程度の学力や資質をもっているか調べ、適切な学習方法や教材を検討するために行う評価。
- ・形成的評価 → 学習活動の途中で、学習者が期待どおりの学習成果をあげているかどうかを見るために行う評価。状況により、指導方法の改善を行う。ブルームが最も重要だと指揮した評価。
- ・総括的評価 → 学習活動の最後に、学習者が当初の学習目標を達成したかを判定する評価。指導計画の反省と改善のための資料となる。

40 板倉聖宣

仮説実験授業を提唱したのは板倉聖宣（きよのぶ）。

仮説実験授業とは、実験の結果を生徒に予想させ、そこから集計して仮説を立てさせ、そして実験結果と比較する。このようにして科学の最も基礎的で一般的な概念や法則を学び取らせ、科学的精神を習得させることを目的とする授業方法。

●平成4年度実施（午後の部）

41 チャム・グループ

中学生、特に女子に顕著にみられる同性及び同質性で結び付いた排他的な関係のことはチャム・グループ。

○青年期前後の集団

② ピア・グループ

青年期以降の友人関係のこと。

この集団は、異質性を認めることが特徴なゆえに、男女混同であることも、年齢に幅があることもありうる。

④ ギャング・グループ

児童期後期(小学校中学年から高学年)に、遊びを中心にして8人程度の集団からなり、極めて閉鎖性が高いグループのこと。この時期はギャング・エイジと呼ばれる。

⑤ チャム・グループ

小学校高学年から中学生に見られる仲間集団のことであり、特に女子にみられる。

平成28年度実施試験において、次の問題があった。

- 9 小学校高学年から中学生になると、同性で共通の興味・関心をもつ者同士が、類似性を確認し合いながら、異質性を排除するような集団をつくるようになる。これを 79 という。

- 79 ①ピア・グループ ②エンカウンター・グループ ③ギャング・グループ
④フォーマル・グループ ⑤チャム・グループ

42 勤勉性 対 劣等感

エリクソンは、その著書『ライフサイクル、その完結（増補版）』で、8つの発達段階における「心理社会的危機」についてまとめている。その中、児童期については「勤勉性 対 劣等感」。

発達段階			心理社会的危機		
第1段階	乳児期	0歳～1歳半	基本的信頼	対	基本的不信
第2段階	幼児期前期	1歳半～3歳	自律性	対	恥・疑惑
第3段階	幼児期後期	3歳～6歳	自主性	対	罪悪感
第4段階	児童期（学童期）	6歳～13歳	勤勉性	対	劣等感
第5段階	青年期	13歳～22歳	同一性	対	同一性拡散
第6段階	成人期（前成人期）	22歳～40歳	親密性	対	孤独
第7段階	壮年期（成人期）	40歳～65歳	生殖性	対	停滞
第8段階	老年期	65歳～	統合性	対	絶望

43 ブルーナー

ウッツ（ウツ）・ホール会議の報告書『教育の過程』は、その会議の議長を務めたブルーナーのキーワード。設問文中に「発見学習」という語句もある。

ウッツ（ウツ）・ホール会議とは、1957年のロシアのスプートニク打ち上げによって起こった「スプートニク・ショック」を機に行われた会議。その成果は、従来の教育課程において中心的な考え方であった経験主義の教育現場にあって、科学の系統性を重視した、知的生産性の高い教育論を打ち出したことにある。その会議の報告書がブルーナーが中心となってまとめた『教育の過程』。そのなかで提起した「どの教科でも、知的性格をそのままに保って、発達のどの段階のどの子どもにも効果的に教えることができる」という仮説が、発見学習と理解されている。

44 森有礼

設問文中の「初代文部大臣」「日本の近代教育制度の基礎をつくった」「福沢諭吉らと明六社を結成」「学校令」などは、いずれも森有礼（もり・ありのり）のキーワード。

「令和3年度実施試験（午後の部）」の **33**（＝教育令）の解説にある年表をもう一度確認してみよう。

45 手塚岸衛

「八大教育主張」で自由教育論を主張したのは手塚岸衛（てづか・きしえ）。

「自由教育」を推進し、千葉師範学校附属小学校では学級自治会の組織、テストや通信簿の廃止などを行った。後に自由ヶ丘学園を創設した。

八大教育主張については、平成30年度実施試験の解説（99頁）に一覧あり。

【自分なりのノート】

こんなノートをつくってみてはいかがでしょうか。作り方、使い方によっては、市販の参考書を凌駕する。

→【講座１】教職教養予想問題（全40回）に登場してきた人物、書物や教育用語などをまとめていく。

（ページの順序の入替や追加ができるルーズリーフがよい）

